

| 開講年度 (Year) | 授業コード (Class Code) | シラバス番号 (Syllabus NO.) | 授業形態 (Style of Class) | 科目ナンバリング (Course Numbering Code) |
|---|--|-----------------------|-----------------------|----------------------------------|
| 2026 年度 | 10400000 | 523 | 講義・遠隔 | EDU-10-10400000 |
| 科目名 (Course Title) | キャンパスライフ入門 (Introduction to Campus Life) | | 授業名 (Class) | |
| 科目区分 (Classification) | 全学共通科目 (自然・人間科学領域) | | | |
| 単位数 (Credit) | 履修期間 (Semester) | 曜日 (Day) | 時限 (Period) | 開講学部 (Department) |
| 2 単位 | 前期 | 水 | 5 | 共通 |
| 職名 (Lecturer's Title) | 教員名 (Lecturer's Name) | | | |
| 専任 | 林 範彦、森谷 文利、藤井 隆雄、前村 奈央佳、関 陽介、山口 治彦 | | | |
| 主題と到達目標 (Theme and Objectives of Class) | <ul style="list-style-type: none"> ・本科目は、2026 年度の新入生全員を対象とする必修授業です。また、「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム (KCUFS DASH)」を修了したい 2~4 年生も履修する必要があります。 ・2023 年度以前に入学された方、2024 年度-2025 年度に単位修得できなかった方も履修登録・受講していただくことが可能です。 <p>(主題) 大学における学びを効果的に進めるためには、様々な知識や技術、さらにはものの見方や規範等を新しく修得してゆくことが必要になります。そのうち初年次から不可欠になるもの、特に本年度から情報科学分野の基礎を中心に学修し、本学における学びの基礎的な資質を育ててゆきます。</p> <p>なお各授業は本学の教職員が担当します。各回の授業タイトルのあとの () 内がその回の担当者です。</p> <p>(到達目標) 授業で扱われた本学での学びの基盤となる知識、技術、ものの見方や規範等を十分に理解し習得している。</p> | | | |
| 評価の方法・基準 (Evaluation) | <ul style="list-style-type: none"> ・各授業への参加や指定された課題の提出状況から本授業の内容の理解度と習得度を総合的に判断し、合格した人に単位を認定します。 ・原則として全 15 回の授業すべてに参加し、かつ、各回定められた提出物を提出した受講生を成績評価の対象とします。 ・単位認定科目なので、単位を取得できた場合は「認定」となります。他の多くの科目のようにそれ以上の詳しい評価をすることはありません。 ・以上の詳細は初回ガイダンスで説明します。 | | | |
| 履修にあたっての注意 (Information about Classwork) | <ul style="list-style-type: none"> ・2026 年度に入学した新入生全員の必修科目です。 ・受講生が多数に上るため、オンデマンド型の授業です。 ・各回の実施日時、受講法等は、別途 GAIDAI PASS を通じ履修登録者に連絡します。 ・2026 年度入学生への課題として、TOEIC IP の試験を受験していただきます。スコアは評価に加味しませんが、課題として取り扱いますので受験の有無は評価に影響します。また「各学科での学び」の動画を視聴いただき、レポート課題を提出していただきます。 | | | |

| | |
|---|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・ TOEIC IP の試験は 1 年生のみ受験していただきます。2025 年度以前入学生は TOEIC IP 試験の無料受験対象ではないため、上記課題は課しません。 ・ 「各学科での学び」動画のご視聴およびレポート課題は、1 年生のみ対象です。 ・ 各回の内容はオンデマンドで提供されますが、GAIDAI PASS で指示される通り、指定された期間にかならず視聴してください。 |
| 使用するソフトウェア (Software used in Class) | 授業中に指定することがある。 |
| 講義内容 (Description and Schedule) | <p>以下、全体スケジュールを示す。ただし、事情により日程・内容・順序の変更があり得るので掲示登録などに注意されたい。</p> <p>4/15 (水) 第 1 回 ガイダンス (教務部長・林 範彦)</p> <p>4/22 (水) 第 2 回 コンピュータ・ネットワーク活用法 メール、ソーシャルメディアの活用 (関 陽介)</p> <p>4/29 (水) 第 3 回 図書館活用法 (学術情報班) 金融リテラシー入門 (教務部長・林 範彦)</p> <p>5/13 (水) 第 4 回 就職活動等キャリア形成への支援 (キャリアサポート部会長)</p> <p>5/20 (水) 第 5 回 社会における変化を捉える：データとは (前村 奈央佳)</p> <p>5/27 (水) 第 6 回 データを使った研究法の基礎 (前村 奈央佳)</p> <p>6/3 (水) 第 7 回 情報科学のための数学の基礎 (1) 1 変数の記述統計 (森谷 文利)</p> <p>6/10 (水) 第 8 回 情報科学のための数学の基礎 (2) 仮説検定 (森谷 文利)</p> <p>6/17 (水) 第 9 回 情報科学のための数学の基礎 (3) 2 変数の統計：共分散・相関係数 (藤井 隆雄)</p> <p>6/24 (水) 第 10 回 経済学におけるデータ活用例 2 変数の統計：回帰分析 (最小二乗法) (藤井 隆雄)</p> <p>7/1 (水) 第 11 回 言語学・語学教育におけるデータ活用例 (山口 治彦・林 範彦)</p> <p>7/8 (水) 第 12 回 データ・AI の活用領域 人文科学におけるデータ活用例 (関 陽介)</p> <p>7/15 (水) 第 13 回 社会における AI の利活用 データ・AI 利活用の最新動向 (関 陽介)</p> <p>7/22 (水) 第 14 回 データ・AI を扱う上での留意事項 (関 陽介)</p> <p>7/29 (水) 第 15 回 データを守る上での留意事項 (関 陽介)</p> |
| 事前・事後学習 (Preparation & Review) | <p>事前学習</p> <p>各回に関連するテーマの図書やウェブサイトを調べて、予習を行うこと。</p> <p>事後学習</p> |

| <p>課題を提出したのちに、示された参考文献や関連資料などを収集・読了し、理解を深めること。</p> <p>本学では1単位当たりの学習時間を45時間としています。毎回の授業にあわせて事前・事後学習を行ってください。</p> | | | | |
|---|----------------|---|--------------------------------------|----|
| 教科書 (Textbook) | | | | |
| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
| | | | | |
| 指定図書 (Reference Materials) | | | | |
| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
| | | | | |
| 使用言語 ((Classroom Language) | | | | |
| 講義 (Lecture) | 教材 (Materials) | テスト・課題・レポート (Test, Assignment, Reports) | ディスカッション・プレゼン等 (Presentations, etc.) | |
| 主として日本語。 | 主として日本語。 | テスト・課題・レポートについては、授業時の指示に従ってください。 | 主として日本語。 | |
| ディプロマ・ポリシーとの関係 (Relationship to Diploma Policy) | DP1：能動的に学ぶ力 | | | |
| 備考 (Others) | | | | |

| 開講年度 (Year) | 授業コード (Class Code) | シラバス番号 (Syllabus NO.) | 授業形態 (Style of Class) | 科目ナンバリング (Course Numbering Code) |
|---|--|-----------------------|-----------------------|----------------------------------|
| 2026 年度 | 10170001~7 | 525~529,1458,1459 | 演習・対面 | INF-10-10170001~7 |
| 科目名 (Course Title) | データサイエンス入門 (Introduction to Data Science) | | 授業名 (Class) | A~G |
| 科目区分 (Classification) | 全学共通科目 (自然・人間科学領域) | | | |
| 単位数 (Credit) | 履修期間 (Semester) | 曜日 (Day) | 時限 (Period) | 開講学部 (Department) |
| 2 単位 | 2 単位 | クラスによる | クラスによる | 学部・第 2 部 |
| 職名 (Lecturer's Title) | 教員名 (Lecturer's Name) | | | |
| 専任、特任 | 関 陽介、今中 厚志 | | | |
| 主題と到達目標 (Theme and Objectives of Class) | <p>本科目は 2026 年度の新入生全員を対象とする必修授業です。また、「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム (KCUFS DASH)」を修了したい 2~4 年生も履修する必要があります。</p> <p>【主題】 現代社会では専門分野を問わず、データを処理するための統計学や人工知能、プログラミング等の知識や技術が求められています。この授業では講義と実習を通してこれらの基礎知識や技術を身につけることを目的とします。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ データサイエンスの基礎知識や技術に関して説明することができる。 ・ データサイエンスに関する実用的な手法を活用することができる。 <p>This is a compulsory class for all new students in 2026. 2nd to 4th year students who wish to complete the "KCUFS DASH" must also take this class.</p> <p>【Theme of this class】 In modern society, knowledge and skills such as statistics, artificial intelligence, and programming for processing data are required. The purpose of this class is to acquire these basic knowledge and skills through lectures and practical training.</p> <p>【Objectives of this class】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Be able to explain basic knowledge and techniques of data science. ・ Be able to utilize practical methods related to data science. | | | |
| 評価の方法・基準 (Evaluation) | <p>1. 課題作成：最大 50 点 2. 期末試験：最大 50 点 ※上記の合計点で評価します。評価基準として合計点を 60 点以上取る必要があり、単位取得として必要になります。</p> | | | |
| 履修にあたっての注意 (Information about Classwork) | この授業では講義と実習 (Excel・Python) を行い、プログラミング環境は Google Colaboratory を使用します。生成 AI に触れるために無償のサービスも利用する予定です。 | | | |

| | | | | |
|---|--|--|--------------------------------------|----|
| 使用するソフトウェア (Software used in Class) | Excel と Google Colaboratory (Google アカウントが必要) を使用する予定です。 | | | |
| 講義内容 (Description and Schedule) | 1 ガイダンス 2 データサイエンスについて 3 データの要約 1 (最大・最小, 平均, 中央値等) 4 データの要約 2 (範囲, 四部位点, 標準偏差等) 5 データの比較 (共分散, 相関関係, 散布図等) 6 データの可視化 7 確率と検定 8 モデリング 9 データ分析の応用 10 プログラミング 11 AI について 12 生成 AI の紹介 13 自然言語処理 14 画像認識 15 期末試験とまとめ・解説 | | | |
| 事前・事後学習 (Preparation & Review) | 本学では 1 単位当たりの学習時間を 45 時間としています。毎回の授業にあわせて事前・事後学習を行ってください。 この授業で扱う内容の多くは研究活動や社会で必ず求められる知識や技術であるため、不明点があれば必ず復習をしてください。 | | | |
| 教科書 (Textbook) | | | | |
| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
| | | | | |
| 指定図書 (Reference Materials) | | | | |
| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
| | | | | |
| 使用言語 ((Classroom Language) | | | | |
| 講義 (Lecture) | 教材 (Materials) | テスト・課題・レポート (Test, Assignment, Reports) | ディスカッション・プレゼン等 (Presentations, etc.) | |
| 日本語 | 日本語 | テスト・課題・レポートについては、授業時の指示に従ってください。 | 日本語 | |
| 授業に関連する実務経験 (Related Work Experience) | プログラミングや人工知能の技術を用いてシステム開発や運用を長年行ってきたため、特に情報処理に関する実務経験が豊富です。 民間企業や行政機関にて、情報システム開発やデータ分析に関するプロジェクトの企画、運用を担当し、業務改善に携わった実務経験を有しています。 | | | |
| ディプロマ・ポリシーとの関係 (Relationship to Diploma Policy) | DP1: 能動的に学ぶ力 | | | |
| 備考 (Others) | | | | |